

東京の介護ってすばらしい!

★グランプリ★

医療・介護・福祉のシゴトとサービス

主催 社会福祉法人 東京都社会福祉協議会
東京都高齢者福祉施設協議会

東京都高齢者福祉施設協議会とは?

東京都高齢者福祉施設協議会(高齢協)は、東京都内の特別養護老人ホーム、養護老人ホーム、軽費老人ホーム、地域包括支援センター、在宅介護支援センター、デイサービスセンターを会員とする組織です。(会員数約1,200施設・事業所)



東京都高齢者福祉施設協議会では、高齢者施設での日常のさまざまな場面にスポットライトを当てながら、介護の魅力を発信するコンテスト「東京の介護ってすばらしい!グランプリ」を昨年より開催しています。本特集では本年度の入賞者インタビューと入賞作品を紹介。また、12月1日に開催された同コンテストのトークセッションの様子も紹介します。

コンテスト実施部門: ホームページ部門 食事(ランチ)部門 メッセージ部門

ホームページ部門 最優秀賞

社会福祉法人 北野会 特別養護老人ホーム マイライフ徳丸 人材開発研究室 いしづか ゆうじ

URL▶ <http://kitanokai.com/>

- 受賞のポイント
- 興味を引くトップページの動画
 - シンプルながら施設の雰囲気が伝わるデザイン
 - サイト構成がわかりやすく必要な情報を見つけやすい
 - 求職者向けに「退職者の声」を紹介し、ミスマッチを防ぐ

本ホームページは1年前にリニューアルしました。そのきっかけは、旧ホームページには介護業界以外の企業のものとは異なる見づらさを感じたことと、見てもらいたいページへのアクセスの不便さがあったことです。

リニューアルでは、施設を探す方には施設の雰囲気やサービスの質を、求職者にはよいところだけでなくリアルな姿を伝えることをコンセプトとして、目的のページにたどり着きやすい構成を意識しました。求職者向けページでは自身が成長できる職場であることも示しつつ、退職者の声や夜勤の様子を紹介してミスマッチを防ぐ新しい試みをしています。

今後は地域活動のコンテンツ追加やSNSの活用に取り組みしたいと思います。

仕事内容 人事

人事として採用や教育の業務にあたっています。スタッフの能力向上が、ご利用者へのサービス向上に直結します。採用では成長できる職場であることや職場の雰囲気を伝え、また、就職した方が自信をもって務めることができるよう、働きやすい環境づくりに取り組んでいます。

- 受賞一覧
- 入賞 みその福祉会 ケアタウン成増 フロントピア 山吹の里 楽友会 白楽荘 瑞仁会 良友園
- 優秀賞 聖風会 大三島育徳会 博水の郷

食事(ランチ)部門 最優秀賞

社会福祉法人 たま紫水会 指定介護老人福祉施設 みたか紫水園 管理栄養士 いむら りょうた

- 受賞のポイント
- 大根が味が染み込みやわらかく、ぶりにはいいねにたまたか食感がなめらか
 - 随所にみられる高齢者がおいしく食べられる工夫
 - 季節を感じられる食材と色合い

今年のテーマは冬のイベント食でした。施設のご利用者は外に出られることが少なく、屋内は年間の気温の変化が少ないため、「季節を感じられる料理」をコンセプトとして、高齢者になじみのあるぶり大根をメインにつくりました。高齢者は噛むことや飲み込みの力が落ちているので、かたくなりやすいぶりをたたいて食べやすくしました。コンテストには2年連続で出場しましたが、他の施設の手の込んだ調理や発想など、とても勉強になりました。

今後の目標として、ご利用者の気分に応じて食事を提供するために、オプションメニューの導入を進めたいと思います。

仕事内容 管理栄養士

ご利用者の体調に応じて栄養に配慮した食事を提供しています。施設では噛むことや飲み込みの力に応じて5段階の調理をしています。食事の様子を見て回ったり介護スタッフの意見を聞いたりして、調理師と連携してメニューを考えています。また、単調にならないよう食材を変える、食べにくい食材は組み合わせや加工で食べやすくするなどの工夫をしています。

- 受賞一覧
- 優秀賞 一誠会 借楽園ホーム 入賞 白十字会 白十字ホーム 東京弘済園 弘陽園

メッセージ部門 最優秀賞

社会福祉法人 東京蒼生会 大森老人ホーム 栄養担当主査 しげた ゆきこ

- 受賞のポイント
- 限られた字数で思いとディテールが感じられる
 - 人はいくつになっても初めての出会いや出来事により成長することがわかった

現在養護老人ホームに勤務している私、毎日が宝探し。利用者の力を借りて、いろいろな活動をするサークル「ほほえみ隊」を結成、隊長はお料理上手なH・Kさん。四季折々の心の籠ったごちそうの数々。春の蓮餅・土用の梅干し作り・終戦記念日のすいとん・秋は栗の渋皮煮・地元フェスタの具沢山の豚汁・お正月は自慢の臈。今でもずっと受け継いでいます。施設近くの海岸で若芽育てて収穫した時、「90過ぎて初めての経験だ」と満面の笑顔。人は幾つになっても初めての出来事と出会い成長していく事を教えてくれました。着物姿に割烹着。凛とした写真が職場の壁に。貴方と過ごした15年! そちらは如何でしょうか? 天国の貴方への回向です。

社会福祉法人 東京蒼生会 大森老人ホーム 栄養担当主査 しげた ゆきこ

柴田 由紀子

- 受賞一覧
- 優秀賞 あなたと私の「ありがとう」 忘れられない笑顔 入賞 80歳の私へ
- 入賞 住めばM・I・Y・A・K・O 私こそ、ありがとう! これからも楽しく家族っていいな

審査員▶フリーアナウンサー 町 亜聖さんコメント



私が高校3年生の時に、母がくも膜下出血で倒れ車椅子生活になり、介護に直面することになりました。それから約10年、母が末期の子宮頸がんまで介護と学業・仕事を両立する生活を送りました。この経験がきっかけとなり、現在さまざまな場所で介護に関する情報発信をしています。そうしたご縁もあり、今回コンテストの審査員を務めさせていただきました。

私自身もそうでしたが、母の介護をしていた日々は決して同じことの繰り返しではなく、毎日が気づきの連続で一瞬一瞬がかけがえのない時間でした。何げない言葉や行動に励まされ、感動を与えてもらいました。介護職も同じだと思います。このグランプリをきっかけに、そんな感動や介護のよさを自分の言葉で伝えてほしいと思います。

私も母の介護の経験がなければこうした活動は行っていませんでしたし、介護が与えてくれた多くの出会いに心から感謝しています。



ホームページ部門

デザイン・情報量だけでなく、情報を必要としている人へのアクセスのよさや更新頻度なども評価対象としました。昨今、地域に開かれ、つながりをもつことが高齢者の介護施設には求められています。ホームページは情報発信の場としてだけでなく、施設が地域とつながる場としてもっと活用してほしいと思います。

食事(ランチ)部門

どの施設も心を込めていない調理していた姿が印象的でしたが、審査では味や食べやすさの他、調理の様子やチームワークも重視しました。今回はご利用者のご家族が参加しているチームもあり、ふだんから介護する側される側ではなく一緒に楽しく共同してつくることを実践している様子も伝わってきました。また、調理する皆さんの姿から食べる方の笑顔も想像することができ、生きる喜びにつながる「食」の大切さを改めて実感しました。

メッセージ部門

ご利用者による印象的な作品がありました。施設に入居し第三者の力を借りることで、娘に最後に自由な時間をプレゼントできたという内容です。働く方、ご利用者自身、食事にまつわるエピソードなどさまざまなメッセージが寄せられました。共通して感じられたのは、何げない日常のなかで感謝や幸せを感じることでできる介護の仕事は、やはり尊く、やりがいのある仕事だということでした。

受賞者によるトークセッション

12月1日に開催されたグランプリの表彰式後に、町 亜聖さん、最優秀賞受賞の3名、福祉のポジティブな視点での発信活動をするNPO法人Ubdobe理事の中浜 崇之さん、介護の魅力を発信する若手介護職員ユニット「東京ケアリーダーズ」メンバーによるトークセッションが開催されました。

司会 右端 中浜 崇之(Ubdobe)

登壇者 右から 町 亜聖(フリーアナウンサー) 受賞者: 石塚 勇次、井村 亮太、柴田 由紀子 東京ケアリーダーズ、介護福祉士: 高橋 雅之、小泉 沙耶加

中浜 介護の仕事の魅力、やりがいについてお話しください。

井村 高齢者は栄養に配慮された食事を多くとる方ほど長生きする傾向がありますので、少しでもおいしい料理を提供してたくさん食べてもらい、人生の終わりまでを支援することがやりがいです。提供した食事を全部食べてもらえたとき、とてもうれしく思います。

柴田 私も管理栄養士をしています。食事は日々の楽しみであり、生きがいを達成するための原動力にもなります。そして食事は、つくり手とご利用者との顔の見える関係づくりによってお互いの気持ちが通じ合い、喜んでいただけるのだと思います。「食」のつながりから始まり、今では「ドリム隊」を立ち上げ、歌や踊りをおしてご利用者と一緒を楽しんでいます。

高橋 介護職は知識欲のある人にはたまらない仕事です。施設には十人十色の人生を歩んだその道のスペシャリストがたくさんいます。その方たちとの関わりのおかげでさまざまな職業の経験を語っていただくのはとても勉強になります。

小泉 入職して初めて担当したご利用者は言葉が通じず、話しかけてもあまり反応されない方でした。ですが、毎日接していくうちに少しずつ心を開いてくれて、最期に看取りをさせていただく際に、ご家族から「私たちがうらやましくなるほど、母はあなたを信頼していました」と言われたとき、介護は尊さがある、やりがいがある仕事だと感じました。

中浜 これからの介護業界はどういった発信が必要だと思いますか?

高橋 4年制大学を卒業して介護の世界に入り、はじめてみてわかったよさが多くありました。今の介護は身体介護だけでなく、日常を快適に過ごすための支援も重要です。たとえばコーヒーをいれるのが得意な方が施設でカフェを開くなど、自分の好きなことをさまざまな場面で活か

ます。介護をオープンにして、多くの方に見てもらいたいです。

柴田 福祉に関わろうとする人たちは、人のためになりたいと思う気持ちが強いと感じます。介護の原点「自分ならどうするか?」を常に心に刻んで行動することが、自身の日々の成長となり、さらに人への興味を広げることで自分自身が楽しむことができたとき、その思いが相手に響くのではないのでしょうか。

石塚 現場の方々はずいぶん仕事をしていますが、それを自信をもって話すことは多くありません。介護は日常の支援の連続で実感しづらい部分もありますが、介護職の方々がこのようなコンテストで自信をより高め、それを発信することが必要だと思います。

町 介護で働く方々は謙虚な方が多く、自ら発信することが少し苦手かなと感じます。自分が感じているままに、目の前の方をどれだけ大切に思っているかを語ってほしいと思います。介護で大切なのは「場所」ではなく「人」だと感じています。この人にそばにいてほしいと思える介護職員に出会えたご利用者は幸せです。ぜひ、そんな介護職員になってください。介護は単純労働ではありません。介護やケアの正解は一つではなく支援も幾通りもあります。「その人らしく」暮らすためにはどうしたらよいか、ぜひ想像力を働かせてほしいと思います。

中浜 楽しいところに人は集まりますので、現場の一人ひとりが介護の仕事を楽しみ輝く姿を見ることが必要です。一つの施設にとどまらず業界全体でレベルアップしていきたいですね。本日はありがとうございました。



本特集で紹介しきれなかったトークセッションの様子はKOUREIKYO JOURNALで紹介しています。紙面は高齢協ホームページに掲載予定です。